

○特別寄稿

世界的視野に立つ宗教家の育成を

天台宗座主 山田 恵諦

留学という言葉を耳にすると、留学する人に対して大半の人は「優秀な人」「将来に期待のもてる人」「新しい文化、知職を将来する人」その他いろいろと期待感を持つ場合が多い。

確かに、遣随使が留学生を伴って大陸に初めて渡って以来、中国を始め近世の欧米と、千数百年間、日本は海外に学ぶものが多かった。それだけに、公費、私費の区別なく、留学を見事に果たした人は、それなりの立派な成果を挙げ、

日本史上に数多くの人が名を残す結果となったことが、留学する人に多くの人が期待感を寄せる最大の理由かも知れない。しかし、現在の日本はまさに世界経済を左右するまでになり、近年はこれまでと逆に数多くの留学生を受入れる立場になってしまった。それはそれでよいので、それとは別に私どもが海外に学ばねばならないことは山ほどある。ましてやグローバル（地球的）な立場で考え、行動しなければならぬ現

在においてはなおさらであり、宗教の世界においても例外でない。

宗教は、ともすれば宗我にとらわれ、他宗教を排斥する傾向が古来から続いている。團結を必要とする民族意識の立場から止むを得ないことであるが、世界は一つという意識が昂揚せられつつある昨今、すべての宗教が従来の排他主義を変更して共通の面で共存共栄の世界を作り出すことが必要で、たとえば、平和の祈りやフオーコラーレを通じて人類の福祉を目標に活動を拓める必要があると思う。

このように考えて日本宗教界の現状を見ると、旧襲維持に重点を置く教化活動の宗派が多く目につき、このままでは世界に流れている信仰情況から孤立するだけでなく、或は日本の心ある人達から見捨てられる怖れさえもある。

今年一月に私の寺から使いの人がバチカンに行ったとき、「この頃私の方の大学で仏教学科を

設けた。宗派、教派に偏らない普遍的な教説を示している仏教の英訳の本があったら寄贈して欲しいということであった」との報告をうけた。欧米では多くの宗教家が宗教の本質に立ち還って、個々の宗教心を満足させることによって、自己の使命を果したいという導きをしている。宣教師が増加しつつあると伝えられている。また、日本では見ることも、体験することも出来ない宗教活動が、外国では行なわれている。その一つとして、政教分離、信教の自由を保証している国において、公共施設が宗教活動に開放されているケース。国家の宗教保護が宗教者の生活、活動にまで及び、民間がまたそれを習うケースと、私たちが学び、実践しなければならぬ点は枚挙にいとまがない有様である。

これらの点に、ユニバーサルな立場に立つていられる黒田武志（大圓）老師は心配されたのだろうか、自ら善光寺海外留学僧派遣育英会を

創始され、莫大な経費をかけて次々とタイ、インド、アメリカ、その他へ幾多の有能な青年僧を送り出されていることは、感謝にたえない。

殊にこの趣旨を本願として新たな土地に新寺を建立し、趣旨に賛同する人びとが新しく檀徒、信徒となつて事業や経営を補佐していられることは、導く人も導かれる人も、ともに真実の菩薩行を實踐せられている、真実の生きた仏教活動として敬服せざるを得ない。世は末世と慨く数々の宗教行為の存在する現代において、このような真実の仏教精神を發揮せられることは、多くの人に広く仏教の進路を提示したことになる、我れ劣らじと多くの青年僧が奮起して下さるならありがたいことである。

比叡山仏教を開いた伝教大師は

凡そ仏法を傳持する有知の丈夫は、誠に須し
自宗の義といえども、若し邪義あらば後学に指
示して誑惑（おうわく）すべからず、他宗の義

といえども、若し正義あらば、取り用いて伝うべし、これ則ち智人なり。法華去惑。

と申されている。伝灯は仏法の生命であるが時代に相應した教法実践はより以上に大切である。法華經には「方便の門を開いて真実の相を示せ」と仰せられている。如何にして教法を活用して真実の相を示すか、それがこれからの仏教徒の使命である。

今後、育英会がますます發展して、留学する人が多くなり、世界的視野に立つた宗教活動が盛んになれば、自然に平和がもたらされ世界は一つの氣運が盛り挙つて宗教的生活に満ちた世の中が實現するであろう。

黒田老師のご活躍に感謝し、檀徒、信徒の皆さまの慈愛の心が二十一世紀のよき仏国土を育成されるよう祈念します。

名誉顧問に山田天台座主

善光寺海外留学僧派遣育英会は、このたび名誉顧問に天台宗比叡山延暦寺の山田恵諦座主を推戴。かねてより育英会に関心を寄せられていた山田天台座主は就任を快諾された。比叡山は仏教各宗派ゆかりの地であり、座主が名誉顧問になられたことにより、育英会ますますの発展が期待される。



